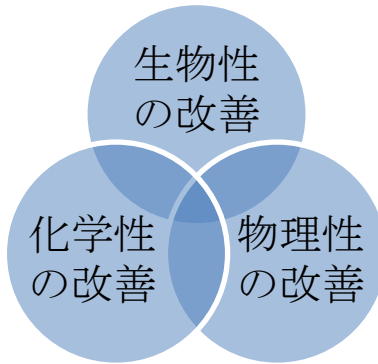




●土作り改善の三つの目安



- 生物性**
 - ・土中に有益な微生物を増やす
 - ・有益菌の定着を促進する
- 物理性**
 - ・土を柔らかく通気性を良く
 - ・排水・保水・保肥性を増す
- 化学性**
 - ・土に肥料等栄養分を与える
 - ・酸性、アルカリ性の調整

- 土壌環境改善・発酵促進剤
エコアップの施用
- 堆肥
腐葉土
- 有機発酵肥料
草木灰

*詳しくはホームページをご覧くださいませ。(動画で見れます) <http://ecoa.co.jp>

●春は堆肥づくりからスタート(準備編)

作業項目と内容	ポイント
エコアップを用いて生ゴミ堆肥と落葉で腐葉土をつくる。1Kg 約 10g 使用	ポリ袋法で一週間程で生ゴミ堆肥となるので、定植時まで順次これを畑に穴施用。(注意) 空気に触れると酸化し腐敗するので、くれぐれも表面にバラ撒かないこと

1 ステップ ●春一番最初の土づくりは草木灰の散布から

草木灰の散布 10 坪当たり約 20L(Kg) (坪当たり 2~3L(Kg))	これは草木灰で土の酸度調整と失われたミネラル分の補給を行い、地力アップを図ります。また荒耕起により、圧雪で固く締まった土に隙間をつくり通気排水性を良くする。エコア有機栽培では生石灰や苦土石灰は用いず、草木灰を使います。樹皮を千℃以上で焼いたミネラル成分豊富な焼成灰で、微生物にやさしい資材です
---	--

2 ステップ ●春の土づくり最も大切な作業 (土が乾いて地温が上がり、定植の約1ヵ月前ぐらいか、遅くても2週間前)

①完熟堆肥をまく 10 坪当たり約 100~150Kg 1 坪当たり 10~15Kg	バーク堆肥等、牛・馬・鶏糞など手に入れやすいものでよい。	土が乾いてから、定植の1ヵ月から遅くても2週間前ぐらいに施用します。良く土になじませ(育土)微生物を育てる気持ちで当たります。 [春は完熟堆肥や発酵肥料の施用]
②「エコアップ」を(善玉菌)散布します。 10 坪当たり 2~5 Kg 200~500g/坪当たり (*米ヌカとで五倍増量法で施用するとよい)	未分解な有機物を分解し、土の団粒化を促進。土に有用な微生物や酵素を定着、活性化します。 *10 坪当たりエコアップ 2~5 Kg に付、米ぬかを 10~25Kg 加えて施用	苗の定植直前には、生堆肥や肥料を施さないようにします。早めの施用なら大丈夫。 [ガス障害について] 生の有機物や堆肥、化学石灰等は土の中で分解する過程で、多量の有害ガス(硫化水素、メタン、アンモニア他)を発生し、作物の呼吸作用に障害をおこし、根腐れや立ち枯れ、作物の生育低下をもたらします。さらに有害ガスは地中にも充満滞留し悪玉菌が増加し、善玉菌とのバランスがくずれ、作物に様々な病気を引き起こす原因になります。でも「エコアップ」があれば大丈夫です。すばやく発酵分解し、土の生命循環を促進させ病害に強い土と作物を育てます。
③耕うん・整地 20~30cm の深さに良く耕す。	この時に土が固い時は腐葉土を大目に施用。	

3 ステップ ●有機肥料の施用 (定植時及び1~2週間前)

④有機発酵肥料を施用 10 坪当たり約 15~30Kg *定植数日前に有機肥料を施す	有機栽培にはやはりこの「有機発酵肥料」が一番。豊富な有機質 100%素材を120 日かけて発酵させ使いやすく粒状にしています。溝又は穴施用で
--	--

◎土に安全な資材ですので、作業が1・2・3 ステップ同時に施用しても害はありません。

詳しくはホームページをご覧くださいませ。 ECOARS (有)エコア技研



草木灰 5L
うらの畑で



生ゴミエコアップ 600g



有機発酵肥料 5Kg